

白鷹町立東中学校

校長氏名 齋藤 和男

所在地 〒992-0832

山形県西置賜郡白鷹町荒砥乙 1158

TEL 0238-85-5531

	1 年	2 年	3 年	特殊学級	合 計	教員数
学級数	3	3	3	2	11	24
生徒数	109	91	113	2	315	

1 研究主題

『個を生かす授業の創造』

～評価活動を生かし基礎・基本を定着させる指導の工夫～

2 研究の内容、方法

(1) 生徒の学力の実態と主題設定の趣旨

標準学力テスト（2・3年生については14年度末に実施、1年生については15年度当初に実施）の結果、各学年とも全国平均並みから全国平均よりやや高い程度の学力である。しかし、学年や教科によっては、生徒の学力進捗差等に関があり、個に応じた指導を一層工夫していく必要があるという生徒の実態である。

本校は、平成14～16年度の3か年にわたり、文部科学省の「学力向上フロンティアスクール」の指定を受け、昨年度は「『個を生かす授業の創造』～生徒同士の関わりを大切にしながら、基礎・基本を定着させる指導の工夫～」という主題のもと、研究を進めた。その結果、3年数学科におけるコース制学習や3年英語科・2年数学科のTT授業において、個に応じた学習を展開することができ、生徒の学習意欲を高めたり、学習が遅れがちな生徒の理解度を向上させることができた。また他教科においても、個に応じた指導のための教材・指導法の開発として、学習プリント、学習カード、小テスト、実技テスト等を用いた実践を積み重ねることができた。

しかし、「生徒の学力の評価を生かした指導の改善」についての実践が不十分であったという大きな課題が残った。

そこで、評価活動を生かし、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導と基礎・基本の確実な定着を目指し、上記主題を設定した。

(2) めざす生徒像

目標に対する自分の到達度がわかり、自分の力に合った学習課題を見つけ、その課題に向かって意欲的に学習を進める生徒

(3) 研究の仮説

- ① 目標に対する評価活動を取り入れ、その結果から個に応じた学習を展開していけば、基礎・基本の定着さらには発展的な思考力・表現力の育成が図れるのではない。

【日常の授業、単元テストとその後の補充学習・発展学習】

- ② 生徒一人一人の実態に即し、個に応じた教材を工夫すれば、意欲的に学習が展開されるとともに、基礎・基本の定着さらには発展的な思考力・表現力の育成が図れるのではない。

【日常の授業、全校テスト】

- ③ 生徒一人一人の実態に即し、個に応じた指導を工夫すれば、意欲的に学習が展開されるとともに、基礎・基本の定着さらには発展的な思考力・表現力の育成が図れるのではない。

【日常の授業(特に数学科のコース制授業、英語科のTT授業)、選択授業Ⅰ】

(4) 研究の視点

- ①-a 学習指導案の中に1教時毎の評価規準と評価方法を明記した指導計画を記載し、単元全体の中で計画的に個に応じた学習への展開を図る。

- ①-b 1時間毎または数時間の小単元毎に、目標の到達度を把握できるような評価活動（小テスト・小単元テストや生徒自身による自己評価等）を工夫して行い、教師や生徒自身が現在身についている力と今後の課題が具体的にわかるようにし、それをもとに個に応じた学習への展開を図る。
- ①-c 単元末に単元テストを行い、その結果からわかった生徒の実態に応じて補足的な学習・発展的な学習・内容を深化させる学習等、個に応じた学習への展開を図る。
- ②-a 生徒が自分の興味関心に応じて選択できるような教材を工夫する。
- ②-b 自力で課題解決させる場と、生徒同士を関わらせる場を設定し、それぞれの場で学習プリント・手引き等、個が生きるとなる教材を工夫する。
- ②-c 全校テストは次のような形式で実施し、個に応じた教材の開発を進める。
 - テストとその練習学習は、年間教育計画に位置づけられた特設の時間の中で実施する。国数社理英5教科のテストを、年間3回（1学期2教科、2学期2教科、3学期1教科）に分けてテストを実施する。
 - 各教科において、特級(150問)・上級(125問)・中級(100問)・初級(50問)という4階級(とテスト範囲問題数)を設定し、生徒が自分の力にあった階級を選択し、練習・テスト受験するものとする。
- ③-a どの教科においても、生徒指導の3つの機能を具体化した視点を設定し、指導の改善を図る。
- ③-b 数学科と英語科においては、次のような指導方法・指導体制の工夫を行う。
 - <数学科>
第2学年3クラス、第3学年3クラスについては毎時間コース制（習熟度別）の授業を行う。
 - <英語科>
第2学年3クラスについては毎時間TT方式の授業を行う。
- ③-c 選択授業Ⅰ（3学年共通）においては、次のような指導方法、指導体制の工夫を行う。
 - 授業は年間教育計画に位置づけられた特設の時間「東中タイム」（定期テスト前の年間5期）に行う。
 - 生徒は年5回とも、国数社理英の5教科から2教科を選択して履修する。選択Ⅰの各教科は、可能な限り同教科内で発展コース・補充コースの2コースを開設したり、TT指導を行い、個に応じた指導の工夫を図る。

3 研究計画

<第2年次>

- 研究主題「『個を生かす授業の創造』～評価活動を生かし基礎・基本を定着させる指導の工夫～」の追求
- 必修教科における各単元の観点別評価規準表の見直し
- 1教時毎の評価活動の工夫（教師による評価と生徒による自己評価）
- 単元テストの実施とその後の補充・発展学習への展開
- 各教科において、生徒が興味・関心により選択できるような教材の開発
- 全校テスト（国数社理英の個に応じた教材）の作成と実施
- 生徒指導の3機能を具体化した視点の設定と指導の改善
- 数学科のコース制（習熟度別）授業の実施
- 英語科のTT授業の実施
- コース制やTT指導を取り入れた選択授業Ⅰの実施
- 研究のまとめの作成と次年度の研究構想の作成

月 日 (曜)	研究内容	授 業 研 究		そ の 他 の 研 究	指導主事要請
4/16(水)	全体研修 (今年度 の学校研究 の 内容 と 方向性 について)				
5/14(水)	研究内容確認	理科 (2-2)	鈴木清教諭	教科部会	◎
6/ 5(木)	授業 に 基づく	社会 (2-3)	安達利教諭	教科部 会	○
		音楽 (1-1)	江口教諭		
8/21(木)	全体研修 (中央講師 の方をお迎えして)				
10/14(火)	授業 に 基づく	数学 A (2-3)	細谷教諭	教科部会	○
		数学 B (2-3)	吉田教諭		
11/19(水)	授業 に 基づく	英語 TT(2-1)	佐藤・楨教諭	教科部会	◎
		国語 (3-3)	安達納教諭		
12/	「学力の評価を生かした 指導 の改善」に 関する レポート の 提出 (教科担任全員) 学校研究 の反省				
1/	授業 に 基づく	学活 (-)	授業者未定	学年部会	○
	学校研究 のまとめ 次年度 の学校研究 の指針				

<第3年次>

- 研究主題「『個を生かす授業の創造』～評価活動を生かし基礎・基本を定着させる指導の工夫～」の深化・発展
- ◎ 公開授業の準備と実施
- 平成15年度同様の研究の継続・発展
- 研究のまとめの作成

4 研究の評価

(1) 評価の視点

- 学習内容の定着を標準化されたテスト等で評価する。
- アンケート調査を行い、指導の改善が進んでいるかどうかを評価する。

(2) 評価の方法

- 標準学力テスト(NRT)の結果を分析し評価する。
- 各教科毎、同じ問題による単元テストを実施し、その結果を蓄積・分析し評価する。
- 生徒指導の3機能を生かした指導の改善について、教師を対象にしたアンケート調査を学期毎に行い、結果を蓄積・分析し評価する。
- 生徒、保護者を対象に学習に関するアンケート調査を年度末に行い、結果を蓄積・分析し評価する。